

現状と課題

課題 土壤汚染対策法改正により、調査等の技術標準強化(細部規定)

理由

製造事業所 環境保全担当



- ✓ トップシークレット情報
- ✓ 担当ノウハウ・引継に手間
- ✓ 行政届出手間・トラブルが多く、工事遅延が起こるケースも
- ✓ 特化した専門スキルが欲しい

指定調査機関 コンサルタント



- ✓ 使用履歴・複数物質・配管深度・地質・・・専門家も時間を要する
- ✓ 生産性があがらず、2次元情報(CAD)との格闘
- ✓ 簡潔・明瞭な説明

CIM による情報一元化

+

データ・報告管理機能

=

DXの実現

(シームレスな管理・引継)

生産性向上

(仮称)MAGIS・CIM土壤汚染版の概要



「MAGIS・CIM」では、仮想空間上で過去の空中写真を確認することも可能です。敷地境界や土壤汚染の区画、30mや10mのメッシュの区画、関連する構造物など確認したい情報が表示できます。また、任意の区画の調査結果やボーリング柱状図、現場写真などの情報を取り込むことが可能です。

(仮称)MAGIS・CIM土壤汚染版の特徴

- 直感的な操作性、汚染情報を容易に視認
- スマートな時系列整理、データ更新、紙出力
- 行政、購入者、周辺住民説明時の労力削減
- 浄化工設計に省力効果(汚染状況把握)
- 区域指定内の建設工事時にも威力を発揮!(タブレットで現地情報・干渉確認・更新)
- 一度情報入力すれば、あとは必要な情報の更新のみ

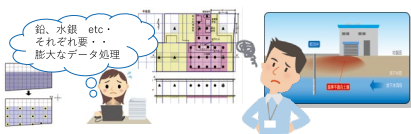
土壤汚染情報の一元管理・3D可視化・報告機能によって
様々なシーンで業務の合理化を実現



今後の展開

(仮称)MAGIS・CIM土壤汚染版を活用することで、土壤汚染関連業務に携わる皆さまの生産性向上を実現

【これまで】



【これから】



【近い将来には・・・】 施工管理の合理化

